

自閉スペクトラム症の青年男子を支える段階的支援（2）

～放課後等デイサービスを利用した段階的 SST（2）の効果について～

○荒牧 要右
(YCC こども教育研究所)
KEY WORDS: 自閉スペクトラム症

加藤 健一
(YCC こども教育研究所)
青年男子 段階的 SST

【目的】

自閉スペクトラム症(以下 ASD)の青年期は、適切な社会的スキルを獲得することが困難であり、心理的な問題を抱えやすいことが報告されている。昨年本学会で、自閉スペクトラム症の青年男子1名に対する SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)の効果について報告したが、本研究はその続報である。同対象に集団適応スキルの向上や心の問題、特に比喻皮肉の理解の促進に焦点を当てた集団 SST と個別 SST を並行して行い、その効果を検討することを目的とした。

【方法】

対象は関西圏の放課後等デイサービスの利用する ASD 青年男子 A (3 期訓練実施時 17 歳)、新盤 K 式的全領域 61 であった。A は中学校卒業後、学外で警察や児童相談所が関与する問題を起こして自尊心は極度に低下しており、希死念慮がみられて投薬治療を行っていた。A への SST は、1 回 50 分、民間療育施設 S の訓練室にて臨床心理士 3 名が担当した。

訓練開始の第 1、第 2 期に続いて、第 3 期(X 年+1 年 4 月～X 年+2 年 3 月)では、①課題の近い中学生および高校生(A を含む利用者 2 人と 5 人グループ)の集団 SST を週 2 回(計 96 回)、②個別 SST 週 1 回(計 48 回)を行った。

集団 SST では、他者の見方・考え方を認めて、社会で適切な行動ができる大人を目指す訓練(Table 2)である。訓練内容としては、青年期に遭遇しやすい対人的トラブル状況を正しく認識できるよう配慮しながら、ロールプレイして理解を深めていく。テーマに関して発表して意見交換しながら、他者の意見の理解を深めていくものであった。

Table 2 3期の青年期SSTの訓練内容(テーマ)

SSTの説明・行動問題の理解と正しい対応
世間の常識と暗黙のルール、冗談と比喻皮肉の理解
異性への理解と対処行動 性犯罪の理解
最近のニュースと世論・振り返り

個別 SST では、個別に行う SST 教材の実施、日頃の学校生活や集団 SST 等で抱えた思いを自由に表現できるようにしながら、社会適応に向けた自己・他者理解を促した。

なお、対象者とその母親からは本発表について書面による同意を得ており、療育機関の倫理委員会の承認を得た。
＜比喻皮肉の評価の方法＞

小枝らが開発した比喻・皮肉文テスト(metaphor and sarcasm scenario test;MSST)を訓練前と訓練後に参加者本人に実施し結果を比較した。

【結果】

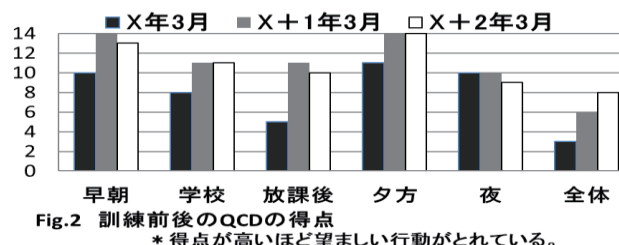
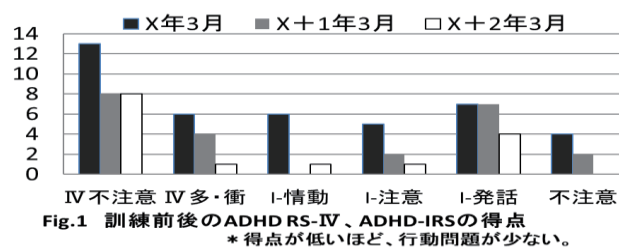
訓練前後で行われた MSST の結果を Table 3 に示した。訓練前後で、比喻に関する理解は正答数が増加したが、皮肉についての変化はあまり見られなかった。

Table 3 参加者における訓練前後のMSSTの得点

訓練前			訓練(12か月)後		
比喻	皮肉	合計	比喻	皮肉	合計
3	0	3	5	1	6

保護者評価用の質問紙(ADHD-IRS、ADHD-RSIV、QCD)を訓練前と訓練後(2 期、3 期終了時)の結果を Fig. 1、Fig. 2

に示した。多くの項目で行動問題が減少し、望ましい行動が増えていた。IV不注意は 2 期～3 期に変化はなかった。



第 3 期の集団 SST では、内面での気持ちの動揺や緊張は見られるものの、それをスタッフに指摘されても認めようとせず、平静を装う様子が見られた。回を重ねるごとに、その動揺や緊張が和らいで、他のメンバーに友好的に関わるようになった。また、自分の好みや気持ちを少しずつ表現するようになった。

個別 SST では、運転免許の取得、政党への参加、障がい者としての将来像、高額所得願望、ストーカー行為の是非、成人の年齢における価値観などにおいて、A は集団認識とのズレがあることに気づきを得た。その結果、自他の両立が困難な状況の中で適応することの難しさを語りながらも、集団適応に向けて自分ができることを考えて、社会的常識を受け入れるような発言が徐々に見られるように変化した。また、集団 SST で抱いた人間関係の疑問について、自ら話題を切り出して話し合うようになった。

母親によると、A は学校担任やスタッフを見本として、自分も良識のある大人になろうとする発言が見られている。態度が穏やかになり、行動問題や希死念慮はほぼなくなり、他者に笑顔で挨拶するなど礼儀正しくなったとのこと。

【考察】

本研究では、ASD 青年 1 名に対して集団 SST と個別 SST を同時に行い、比喻の理解を定着させることができたが、皮肉の理解には変化がなかった。このことは、小枝ら(2006)が、小学校低学年でも理解が可能な皮肉文について、一部の理論課題を通過せず、皮肉文の理解が特に著しい困難を示すタイプの存在を指摘しているが、本対象者それのタイプに該当する可能性があった。

青年期の ASD 男子の支援において、集団 SST と個別 SST を組み合わせることは、2つの指導構造の相補、相乗効果を生むことができ、自己認知と他者理解、社会性の発達を促進させることに一定の効果があったと考えられた。(ARAMAKI Yosuke KATO Kenichi)